

平成16年度「福井元気宣言」推進に係る施策の取組結果

(平成17年3月末現在)

「福井元気宣言」に掲げられた「元気な社会」など4つのビジョンを着実に実現していくため、施策・事業の取組結果について、次のとおり報告します。

平成17年3月

教育長 西藤 正治

総括コメント

福井の未来を担う人づくりに向けて、特色ある新しい教育施策に全力で取り組みました。

・30人学級編制導入などきめ細かな教育体制の拡充については、平成15年度に策定した「元気福井っ子笑顔プラン」に基づき、小学1、2年には学校生活支援のためのボランティア制度を、小学校3～5年については、チーム・ティーチングや少人数指導を、小学校6年から中学3年には少人数学級編制を導入しました。

・高校生の学力向上については、教員の予備校派遣や予備校講師による研修会を開催し、教科指導力向上に取り組むとともに、学力向上のための教員を12名配置しました。また、各高校独自の学力向上策への支援、大学入試センタープレテストの実施など能力や個性に応じた教科指導や進路指導を充実するための各種施策に取り組みました。

・学区・学校群制度を廃止し、2度目の高校入試を実施しましたが、受験者の出願動向に大きな変化は見られず、特定の高校への集中も緩和される傾向にあります。今後とも、入学者選抜制度の改善に取り組めます。

・特色ある学校づくりの一環として、本県独自の中高一貫教育をあわら、朝日、三方、美浜の3地域で平成17年度実施に向け取り組みました。この福井型中高一貫教育は、中学校の一部のクラスを連携先の高等学校にスライドさせるというシステムであり、それぞれの地域の実情に合った中高一貫教育制度の一層の理解と周知に努めます。

・県立高校における普通教室等の冷房設備の整備については、平成15年度に7校、平成16年度に10校の整備を行いました。

・教員の資質向上については、教員採用試験では人物評価の一層の重視、管理職任用選考試験では受験機会の拡大、教員研修では民間企業等における体験学習等の充実を図り、優秀な人材の育成、確保に努めました。

・スポーツの振興については、全国スポーツ・レクリエーション祭の成功に向けて積極的に取り組み、県外からの監督、選手8,200人を含む13万3千人余の参加者に対し、ニュースポーツの普及はもとより福井豪雨から着実に復興を進めている健康長寿で元気な福井県を広く県内外にアピールしました。また、県民が気軽に参加できる幅広いスポーツ大会を平成17年度に実施するための準備に取り組みしました。

・スポーツイベント等の開催においては、大会参加者等への県内観光パンフレットの配布や大会会場内での地場製品の販売など本県のよさを広くアピールするよう努めました。

・文化の振興については、17年度に開催される国民文化祭のプレイベントとして、10月にプレ国民文化祭を開催し、全県的な成功を目指した機運の醸成に努めてきました。17年度は大会の成功はもとより大会を一過性のイベントとして終わらせることなく、福井県全体のイメージアップにもつながるような取組を推進します。また、国民文化祭開催を契機とした福井文化の在り方について、有識者の意見を踏まえた検討を進めていきます。

・その他の施策・事業についても16年度に実施した取組みのステップ・アップを図るなど、引き続き、「福井元気宣言」の実現を推進します。

「政策合意」の取組項目に係る結果について

別紙「平成16年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)」の通り

平成16年度 取組項目に係る結果報告 (教育庁)

(平成17年3月末現在)

取組結果の区分】目標を上回って達成しました。
 ・目標を達成しました。
 ・目標達成にはいたりませんでした。
 ・取組を継続中です。

役職	教育長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
○重点項目 1 30人学級編制の導入 子どもたちの持てる可能性を最大限に伸ばすため、ボランティア制度の導入やチーム・ティーチング、課題別・習熟度別学級等の少人数指導および少人数学級の編制等を内容とする「元気福井っ子笑顔プラン」を進めます。 (小学校1、2年 ボランティア制度の導入 小学校3～5年 チーム・ティーチング、課題別・習熟度別学級等 少人数学級編制 小学6年 39人 中学1年 37人 中学校2・3年 39人)		[成果等] 目標を達成しました。 子どもたちの持てる可能性を最大限に伸ばすため、「元気福井っ子笑顔プラン」を実施しました。 (1) 小学校1、2年 ボランティア制度の導入 (2) 小学校3～5年 チーム・ティーチングや少人数指導を実施 (3) 小学校6年～中学校3年 少人数学級編制を実施 小学6年 39人 中学1年 37人 中学校2・3年 39人	
2 高校生の学力向上 今年度は、普通科、総合学科設置校18校において新たに実施する高校生基礎学力診断テストをはじめ、学習合宿の実施、大学のオープンキャンパスへの参加等、各校独自の学力向上策を支援します。 教科指導力の向上、進路指導の充実および学習時間の確保を図るため、大手予備校への教員の派遣および同校講師による教員研修会を開催するほか、教科指導や進路指導の中核となる指導的教員12人を配置します。		[成果等] 取組を継続中です。 1 高校入学時の学力分析と個に応じた指導 (1) 5月に高校生基礎学力診断テスト(国語、数学、英語)を実施 (2) 2月に第2回目を実施し、学習到達度をチェック 2 教員の指導力向上 (1) 予備校講師による研修の実施 (2) 予備校への派遣 (3) 学力向上のための教員配置(12人) 3 大学入学試験の状況 (1) 11月に大学を会場に大学入試プレテストを実施 (2) 難関大学合格者の状況 難関大学といわれている東京大学や京都大学等の入学試験状況は、現役生徒が149人合格(昨年より8人増加)	
3 高校生の就職支援 高校生の望ましい職業観・就労意識を形成するため、講演会の開催をはじめ、就業体験や職業適性検査を実施します。 進路指導担当教員を対象とした実践的研修や卒業生の就職先企業訪問を実施します。 また、「高校生就職支援検討委員会」を設置して、企業側とのミスマッチ等の諸課題を検討することにより、離職率の低下を図ります。 地域産業界が求める人材を育成するため、職業系高等学校において、常に、企業ニーズを踏まえた多様な選択科目の開設や国家資格等の取得を目指したカリキュラムを編成します。 (16年3月卒業生の就職後3年間の離職率40%未満の実現)		[成果等] 取組を継続中です。 1 講演会を県立高校18校で実施 2 高校2年生を対象に県立高校18校で就業体験を実施 3 職業適性検査を県立高校18校で実施 4 進路指導担当者の研修会を実施 5 卒業生の就職先企業訪問実施 3月末までに18校で延べ2,127人の教員が企業を訪問 6 高校生就職支援検討委員会を3回開催 7 各学校の実情に合わせたカリキュラムを編制	

平成16年度 取組項目に係る結果報告 (教育庁)

(平成17年3月末現在)

- 取組結果の区分】目標を上回って達成しました。
 ・目標を達成しました。
 ・目標達成にはいたりませんでした。
 ・取組を継続中です。

役職	教育長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
4 スポーツの振興 今年10月に開催する「全国スポーツ・レクリエーション祭」については、関係方面との連携を図り、全庁体制の下成功に向けて積極的に取り組めます。 また、大会を一過性のイベントとして終わらせることなく、県全体のイメージアップにもつながるような取組みを推進します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 全国スポーツ・レクリエーション祭」実施状況 開催期間：平成16年10月2日～5日 参加者数：13万3千人余（県外監督、選手 8,200人含む） 協賛事業を含む参加者数 約30万人 開催場所 県内19市町34会場 開催種目数：25種目の競技やシンポジウム その他 期間中、ニュースポーツの体験、県産品の紹介、販売などの特別行事も合わせて実施し、ニュースポーツの普及はもとより、福井豪雨から着実に復興を進めている健康長寿で元気な福井県を広く県内外にアピールした	
県民体育大会と県スポーツ・レクリエーション祭を統合して、県民が気楽に参加できる幅広いスポーツ活動の場としての県民スポーツ祭（仮称）を、平成17年度に開催するための準備を進めます。		〔成果等〕 取組を継続中です。 県民が気楽に参加できる幅広いスポーツ活動の場としての県民スポーツ祭（仮称）の開催に向け、検討委員会および開催準備委員会を開催（検討委員会2回、開催準備委員会4回、競技種目担当者会議1回開催） 大会名称の募集：3月18日（金）～4月8日（金） 〔17年度県民スポーツ祭（仮称）開催事業（予定）〕 開催時期 総合開会式 17年7月9日（土） 夏季大会 17年7月9～10日、8月6～7日 冬季大会 18年2月中旬 大会形式および方法 市町村対抗の部（39種目） 交流の部（52種目） 高校および中学校の部 参加者 市町村対抗の部 - 市町村代表選手、 交流の部 - 一般県民 なお、身体に障害のある人の参加にも配慮する。 その他：体験教室や講習会等を実施する種目も設ける。	
5 歴史・文化の香りただようまちづくりの推進 一乗谷朝倉氏遺跡復原整備を促進するため、平成17年度からスタートする発掘整備計画（案）を、今年度中に策定します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 一乗谷朝倉氏遺跡整備活用・新10か年計画（計画期間平成17年～平成26年）を策定しました。 ＜計画のポイント＞ ・国民文化祭ほか各種イベントを活用した観光誘客の促進 ・「月見櫓」の整備等発掘整備の充実 ・出土遺物の重要文化財指定等による新たな魅力づくり ・遺跡の復原整備の充実および山城の本格的発掘整備の推進 ・遺跡および周辺エリアを含めた整備の推進	

平成16年度 取組項目に係る結果報告 (教育庁)

(平成17年3月末現在)

取組結果の区分】目標を上回って達成しました。
 ・目標を達成しました。
 ・目標達成にはいたりませんでした。
 ・取組を継続中です。

役職	教育長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
「一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会」を中心として、遺跡およびその周辺を資源とした観光振興や地域ブランド化の方策を検討します。		〔成果等〕 取組を継続中です。 一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会を中心として、遺跡とその周辺を資源とした中長期的活用推進策および短期的誘客活動について検討を進めました。 ・会議開催 5回 ・16年度での取組 - 共通観覧券の販売開始 「朝倉いっぷく茶」の運営開始 - JRタイアップ観光誘客事業 ・新たな取組みの検討 - 各種イベントを活用した写真コンテスト等の実施 - 遺跡案内ボランティアの充実	
○個別項目 1 学校教育の充実 (1) 英会話力の養成 国際化社会において、幅広く活躍する人材を育成するため、児童・生徒の英会話力を養成します。 今年度は、小・中・高等学校において、外国人講師を招いた英会話教室等を実施するとともに、県内中・高等学校の英語教員180人を対象に、その指導力向上の研修(10日間)を行います。 英会話教室...小学校36校、中学校8校、高等学校5校 18年度末 中学校3年生の英検3級保有率 28% 高校3年生の英検2級または準2級保有率 30%		〔成果等〕 取組を継続中です。 1 英会話力の向上のため各種取組みを積極的に推進 小学校36校、中学校8校、高等学校5校 その成果を報告書にまとめ全小・中学校に配付 2 英語教員集中研修 小・中・高等学校の英語教員の指導力と英語力の向上のための研修を10回実施	
(2) 「中高一貫教育」の推進 中高一貫教育研究会議を設置し、福井県にふさわしい中高一貫教育を推進するため、6年間を通した計画的・継続的なカリキュラムの編成や指導方法の工夫および中高の交流活動を研究し、平成17年4月からの本格実施を図ります。 研究推進校 金津高校 - 金津、芦原中学校 丹生高校 - 朝日東中学校 美方高校 - 美浜、三方中学校		〔成果等〕 目標を達成しました。 中高一貫教育研究会議を設置し、福井県にふさわしい中高一貫教育を推進するため、各地域の実情に応じて研究報告書「福井型中高一貫教育の実施について」をまとめ、平成17年度から本格実施 中高一貫教育校 金津高校 - 金津、芦原中学校 丹生高校 - 朝日中学校 美方高校 - 美浜、三方中学校	
(3) 高校入試制度の改善 「高校入学者選抜改善検討委員会」において、受験機会の複数化や学校独自問題の作成および入学後の進路変更システムの弾力化等について引き続き検討し、生徒の能力・適性を伸ばすとともに、多様化する進路希望に対応した特色ある高校づくりを進めます。		〔成果等〕 取組を継続中です。 生徒の能力・適性を伸ばすとともに、多様化する進路希望に対応した特色ある高校づくりを進めるため、高校入学者選抜改善検討委員会を開催しました。 ○第8回 7月20日 ・入学後の進路変更について (1) 県内高校生の中途退学者(15年度215人)の実態について分析 (2) 不適応の原因と対応、入学後の進路変更システムについて協議 ○第9回 2月24日 ・同一学科、異なる学科における進路変更について ・入学後の進路変更システム(案)について	

平成16年度 取組項目に係る結果報告 (教育庁)

(平成17年3月末現在)

取組結果の区分】目標を上回って達成しました。
 ・目標を達成しました。
 ・目標達成にはいたりませんでした。
 ・取組を継続中です。

役職	教育長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
(4) 不登校等対策の総合的推進 すべての児童・生徒が楽しくいきいきと学校生活を送るために、学校間の交流活動、子どもの話し相手となる大学生の派遣等不登校の未然防止を図ります。 また、電子メールによる児童・生徒の悩みや不安についての相談およびマスメディアを活用して、家庭や地域においての不登校の発生防止、対応等を図ります。		〔成果等〕 取組を継続中です。 1 不登校未然防止に向け、小・中学校の連携を重視した実践を推進 2 子どもの話し相手となる大学生を「心のパートナー」として派遣 3 電子メールによる悩みや不安に対する相談を実施 4 子どもの不安に対する理解を呼びかけるTVスポットCMを放映等	
県立高校における中途退学者は、全国に比べ低い状況にありますが、引き続き専門的なカウンセリングの知識や技能を身に付けた教員を配置し、中途退学者等の未然防止を一層図ります。		〔成果等〕 取組を継続中です。 カウンセラー養成研修に、今年度教員2人を派遣し、教育相談に関する専門的力量を備えた教員を養成	
(5) 県立高校の冷房設備の整備促進 今年度は、新たに県立高校10校において、冷房設備の整備促進への支援を行います。 〔15年度...7校、16年度...10校〕 〔17、18年度...15校(全校完了)〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 県立高校10校の冷房設備を整備完了。	
(6) 南越地区養護学校(仮称)の建設 南越地区に養護学校を建設し、養護教育の充実および遠距離通学の解消を図ります。 〔設置場所 武生市上大坪・萱谷町地係 就学予定人員 80名(幼・小・中・高等部) 開校 17年度〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 南越地区における特別支援教育のセンター的役割を果たすとともに、知的障害・肢体不自由・病弱の複数の障害や、幼稚部から高等部までの幅広い年齢層など多様なニーズに対応する、南越養護学校が完成し、2月13日に見学会を実施しました。 学校名：福井県立南越養護学校 設置場所：武生市上大坪町35-1-1 就学予定数：63人(小学部20人、中学部8人、高等部35人) 開校：平成17年4月(4月7日開校式・入学式を予定)	
2 教員の資質向上 (1) 教員採用試験 「元気福井っ子笑顔プラン」の実現などに対応するため、教員の中期的な採用計画を策定し、優秀な教員の安定的な確保を図ります。		〔成果等〕 取組を継続中です。 昨年度、人物評価の重視をポイントに、社会経験の豊富な人材を確保するため、受験年齢制限の引き上げ 特に秀でた技能や実績を有する者および教職経験者に対し、1次選考の免除等を内容とする教員採用試験の大幅な見直しを行い、今年度もそれを引き続き実施した。 今後も、受験資格年齢制限の見直しを図るとともに、より人物評価重視の観点から面接の方法や内容の見直しを図る。	

平成16年度 取組項目に係る結果報告 (教育庁)

(平成17年3月末現在)

【取組結果の区分】・目標を上回って達成しました。
・目標を達成しました。
・目標達成にはいたりませんでした。
・取組を継続中です。

役職	教育長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
(2) 教員研修の充実等 学校教育の成否は、教員の双肩に大きくかかっています。その教員の研修の中心的役割を果たす教育研究所において、企業経営者等を交えた「教育研究所等運営協議会」を設置し、学校経営や学習、生徒指導を内容とする研修の在り方や充実について、専門的かつ多面的に見直しを図ります。 更に、シンクタンク機能、情報機能、相談機能等を充実し、時代の要請に応じた学校教育の実現のための調査・研究、情報収集の実施および相談体制を確立していきます。 指導力不足等教員については、校内指導や校外研修等を行い、指導力の向上を図ります。		〔成果等〕 取組を継続中です。 これまでの教員研修を見直し、教員に対する効果的な研究の在り方について検討してきた。一般教員に対しては、民間企業等における体験研修や経験年数、職務あるいは各種課題に対応した研修の充実に努めている。 指導力不足等教員に対する制度を確立し、校内および校外研修では、きめ細やかな研修プログラムに従って、段階的に研修を進めている。 今後も、「経験年数に応じた研修」を軸として、実践的指導力の育成を図る「教科等のスキルアップ研修」や「職務に關した研修」等の一層の充実を図る。 また、研修講座やシンクタンク機能についても様々な角度から改善を図っていく。	
(3) 校長・教頭選考試験等 校長・教頭選考試験の面接において、経済界やPTAの代表を面接員に加え、学校経営に優れた資質・能力を有する教員を登用します。 また、女性校長・教頭の積極的な登用に努めます。 〔女性校長・教頭の登用率 16年4月18.8%→17年4月22%〕		〔成果等〕 取組を継続中です。 管理職任用選考試験では、受験申請のあった者すべてに受験資格を与える 受験資格年齢制限の幅を広げる 県立学校教頭試験に筆記試験を導入するなどの改善を図り、優秀な管理職の登用に努めた。 また、女性管理職の登用率は21.9%に達した。 今後も、本年度の改善を引き継ぎ、男女を問わず優秀な管理職の登用に努める。	
3 家庭・地域・学校の連携、生涯学習の振興 (1) 「福井型コミュニティ・スクール」の推進 今年度は、新たにモデル校を11校追加指定(累計14校)し、保護者や地域の代表と学校関係者で構成する「地域・学校協議会」による地域に開かれた学校づくりを進めます。 〔コミュニティ・スクール設置市町村 15年度... 3市町村(累計 3校) 16年度... 14市町村(累計14校) 18年度... 全市町村(累計36校)〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 新たにモデル校(11校)を指定し、地域に開かれた学校づくりを進めています。 大野市有終西小、あわら市金津東小、丸岡町竹田小、鯖江市北中山小、今立町花筐小、織田町立織田小、小浜市立田島小、美浜町美浜北小、上志比村上志比中、勝山市立勝山北部中、敦賀市立角鹿中 福井型コミュニティ・スクール研究推進会議を設置し、福井型コミュニティ・スクールの在り方等について検討しました。	

平成16年度 取組項目に係る結果報告 (教育庁)

(平成17年3月末現在)

【取組結果の区分】・目標を上回って達成しました。
・目標を達成しました。
・目標達成にはいたりませんでした。
・取組を継続中です。

役職	教育長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
(2) 地域での社会教育の向上(コミュニティの形成) 地域が主体的に運営するふれあい会館の整備を進めるとともに、市町村が設置している公民館の活性化計画の策定等地域でのコミュニティの形成およびその教育力の向上に取り組めます。 〔ふれあい会館整備...年間10館〕		〔成果等〕 目標を達成しました。 ふれあい会館を、8館整備しました。 モデル公民館(4館)事業を行うとともに、「福井県公民館活動活性化指針」を策定し、県内の公民館や関係者に周知しました。	
(3) 生涯学習機会の充実 県立図書館の運営については、開館日の拡大や開館時間の延長、ボランティアの募集等様々な努力を進めてきましたが、更に、幅広い県民の意見を踏まえるため、「図書館運営懇話会」を設置し、より一層の利用向上および機能の充実を検討していきます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 福井県立図書館運営懇話会を設置し、サービス向上等について協議しました。 〔 ・購入図書「選書」方針の決定 ・県立図書館司書の業務拡充策の決定 ・「産業支援コーナー」設置の決定 〕 県立図書館へのアクセス向上のために、フレンドリーパスについて、利用ニーズを踏まえたルートを見直すなど、利用拡大に努めました。	
4 ふくい文化の創造およびスポーツの振興 (1) 公共施設(文化施設)の利用促進 嶺南地域において、移動美術館(年3回)および移動企画展(年1回:今年は一乗谷朝倉氏遺跡資料展)を引き続き開催します。更に、嶺南地域から福井市内の中核的文化施設への直行送迎バス「フレンドリーアート号」の運行(年8回)を継続します。		〔成果等〕 取組を継続中です。 嶺南地域における移動美術展および移動企画展の開催とともに、嶺南地域からの直行送迎バス「フレンドリーアート号」の運行を継続して行いました。 1 移動企画展等の開催 ア移動美術展 小浜展(2回 若狭歴史民俗資料館) 敦賀展(1回 敦賀市博物館) イ移動企画展 一乗谷朝倉氏遺跡資料館移動企画展 (1回 若狭歴史民俗資料館) ウ総入館者 1844人(4回実施分) 2 フレンドリーアート号の運行 年8回実施 平均乗車人数30人	
文化施設については、民間企業の経営手法の導入を検討する等コスト意識を重視した運営を推進するとともに、県民サービスの向上を図ります。		〔成果等〕 取組を継続中です。 文化施設の運営にマネジメント感覚を導入するため、バランスシートを活用し、運営状況の把握を図るとともに、入館者増加のためのセールス活動に取り組みました。 ・バランスシートの作成 16年度 恐竜博物館、音楽堂 17年度以降 歴史博物館、美術館、若狭歴史民俗資料館、一乗谷朝倉氏遺跡資料館 ・文化施設入館者数 66万人	

平成16年度 取組項目に係る結果報告 (教育庁)

(平成17年3月末現在)

取組結果の区分】目標を上回って達成しました。
 ・目標を達成しました。
 ・目標達成にはいたりませんでした。
 ・取組を継続中です。

役職	教育長	氏名	西 藤 正 治
取 組 項 目		取 組 結 果	
(2)文化の振興 平成17年度に開催する国民文化祭については、関係団体や市町村と十分連携を取りながら、着実に準備を進めるとともに、今年10月から11月にかけて、プレ国民文化祭を開催します。		〔成果等〕 取組を継続中です。 国民文化祭に向けた準備を進めるとともに、第20回国民文化祭・ふくい2005プレフェスティバルを開催しました。 (1)総合フェスティバル 日 時 平成16年10月24日 場 所 サンドーム福井 観 客 数 1,000人 (2)分野別フェスティバル 事 業 数 吹奏楽の祭典 他42事業 開催期間 平成16年9月1日～11月30日 場 所 県立音楽堂 他42会場 観 客 数 66,750人	
国民文化祭後を視野におき、歴史的遺産の活用や人材の育成など「ふくい」文化の振興に向けた取組方針を検討します。		〔成果等〕 取組を継続中です。 国民文化祭を契機とした福井の文化の在り方について、「ふくい文化懇話会」において検討を行いました。 ・会議開催 5回(前年度から含めて7回) ・これまでの意見の中間とりまとめ ・今後の対応：県内各地域で県民との意見交換等の実施	
本県ゆかりの歴史的人物を全国に向けて情報発信し、地域ブランドを高めます。		〔成果等〕 取組を継続中です。 大阪市が平成17年度から創設する「三好達治賞」に協力し、本県のアピールを図るため、連携して準備を進めています。 橋本左内や梅田雲浜などについて墓石等のある東京都荒川区や台東区との交流を図り、荒川区民祭に県が参加するなど連携を進めています。	
(3)スポーツイベント等の開催 本県で開催される、2005少林寺拳法国際大会(17年10月開催)や第56回中部日本卓球選手権大会(今年8月開催)においては、来県者への本県のイメージアップに努めるとともに、その成果を後年に活かし、県内スポーツの振興を図ります。		〔成果等〕 目標を達成しました。 参加選手等に県内観光パンフレットを配布するなど本県のイメージアップに努めた。 会場内で地場産品の販売を実施した。 スポーツイベント開催状況 (1)北信越ゲートボール選手権大会 開催期日：平成16年5月29～30日 開催場所：鯖江市東公園陸上競技場 参加者数：800人 (2)中部日本卓球選手権大会 開催期日：平成16年8月28～29日 開催場所：敦賀市総合運動公園体育館 参加者数：1,000人 (3)高松宮賜杯中部日本スキー大会 開催期日：平成17年1月27～29日 開催場所：スキージャム勝山 参加者数：450人	